

～ピピオからのお知らせ掲示板～

・生活用品を御提供頂きました

平成25年3月、空本様より、組立式ベッド、冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、テレビ、掃除機、小型炊飯器を御提供頂きました。入居中の子どもの退所の際に活用いたしたいと思っております。本当にありがとうございました。なお、今後もピピオの家から巣立つ子どもたちへの生活用品（家具家電含む）等の提供を行うため、皆様のお手元にあります、使われていない生活用品等をご提供頂ければ幸いです。

・社会課題解決プロジェクトへのご協力ありがとうございました

前回、ひなばとでご案内しました本年1月1日から3月31日まで共同募金会による社会課題解決プロジェクトには、大勢の方々にご協力を頂き、ありがとうございました。期間中の合計寄付金額は、68万1898円であり、共同募金会を通じて、88万6467円の交付金を頂く予定になりましたので、この場をお借りして御礼申し上げます。

平成25年4月末日時点の会員数

正会員（個人）	92名
正会員（団体）	5団体
賛助会員（個人）	57名
賛助会員（団体）	2団体

発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局
〒730-0005 広島市中区西白島町16番1号NIDIビル202 那須法律事務所内
TEL: 082-221-9563 FAX: 082-299-7629

ひなばと



～NPO法人ピピオ子どもセンター 会報～
vol. 9

平成25年5月10日

子どもの日記念シンポジウム2013・開催

今年も、4月28日午後1時から広島青少年センターにおいて、広島弁護士会主催「子どもの日記念シンポジウム2013 子ども達に寄り添う」が開催され、NPO法人ピピオ子どもセンターも後援しました。このシンポジウムは、「ピピオ」を立ち上げるきっかけとなったシンポジウムであり、毎年、シンポジウム内で行われる高校生と弁護士でつくりあげる「はばたけピピオ！」という演劇が行われ、ピピオの活動も演劇内で取り上げられるなど、ピピオの活動の広報としても大きな意味を持っているシンポジウムです。

今回は、昨年大きな問題となった「いじめ問題」について考えることをテーマとして、演劇、講演が行われました。演劇では、舟入高校、沼田高校の演劇部の生徒、顧問の先生方にご協力頂き、いじめ問題について、いじめの被害者側の視点だけでなく、いじめの加害者側の視点も交えて、いじめ問題の実態を分かりやすく示してもらいました。「ピピオ」も演劇中に登場し、「ピピオ」が子どもを支えている役割の重要性を改めて示してくれました。

講演は、子どもの権利に関する問題について精通した、東京弁護士会の川村百合弁護士にご講演頂き、加害者側に対してもサポートが必要ないじめ問題の現状などについてお話を頂きました。

いじめの背景にも、居場所のない子どもの葛藤が存在することがシンポジウムを通じて観覧された方に伝えられると共に、居場所のない子どもの支援として当センターの活動の重要性も御伝えできたのではないかと思います。



会員の皆様へのご挨拶～第9回～平谷優子

皆さまには、平素よりピピオの活動にご理解を賜り、さまざまなかたちで大変お世話になっておりますこと、改めてお礼申し上げます。

さて、子どもシェルターピピオの家は、本年4月に開設から丸2年を迎えました。この2年間、私たちは子ども達と一緒に悪戦苦闘をしながら子ども達と向き合わせてもらい、随分鍛えてもらったように思います。

ピピオの家に入居する子どもの半数以上は、退去後に帰宅する見通しのない子ども達です。そうした子ども達は、本来はシェルターで落ち着いた生活を取り戻した後、自立援助ホームという独立の準備を支援する施設で力をつけて一人暮らしを目指します。しかし、自立援助ホームも定員などの問題もあって広島では十分とはいえず、昨年度ピピオの家は自立援助ホームのように子どもの自立支援に重点を置いた長期入居の対応をせざるを得ない事態が続きました。

こうした状況から今年度、改めてピピオの家のあり方について協議を行いました。広島の実情等からすると非常に悩みながらも、ピピオの家は居場所を失った子ども達を法律の盾によって守る緊急避難場所（シェルター）でありつづけるべきとの結論に至りました。

先日、あるボランティアスタッフの方から「子ども一人一人の入居に至るまでの人生に敬意を払いたい」とのお言葉をいただきました。子ども達は、ときに大人にいろいろな反応を示します。こちらが腹の立つこともあります。しかし、子ども達の対応は、入居までに受け続けた大人からの仕打ちの裏返しのようにも思われます。子ども達には過去を言い訳にしてほしくはありませんが、大人としてはその子の人生に敬意を払いそっと寄り添う気持ちを持ち続けたい、そんな関わりをしていきたいと、（そうできていない自分を反省しながら）思っています。

NPO法人ピピオ子どもセンター 理事 平谷優子

～ピピオを巣立った子どもたちの声～

これまでにピピオを巣立った子どもたちの声を紹介しています。

今回は、Aさん（仮名・匿名希望）の声を紹介します。

「ピピオでの生活は楽しかったです。ご飯が美味しかったです。特に、スタッフさんが焼いてくれたパンが美味しかったです。自分だけの部屋があるのも良かったです。入所したばかりのときや、人と話したくないときに、一人で静かに過ごすことができました。

ピピオにいる間に少しお金が貯まったので、ピピオを出た後も何とか生活ができています。これからは仕事をしながら資格を取りたいです。」

ボランティアスタッフ研修のご案内

平成25年6月5日からボランティアスタッフ研修を開催いたします。詳細は、同封しております募集要項と予定表をご覧ください。たくさんの方のご参加をお待ちしています。

マツダ財団との連携事業がはじまりました

NPO法人ピピオ子どもセンターでは、平成25年4月1日から平成28年3月31日までの3年間、公益財団法人マツダ財団様にご支援いただき、連携事業として「スタートラインプロジェクト」を開始致しました。この事業では、「ピピオの家」に入居中の子どもに対して、自立支援や学習支援などの様々な支援を行う費用や、スタッフ研修などより充実した子どもの支援を行うための費用をマツダ財団様から支援いただき、NPO法人ピピオ子どもセンターが、より充実した子どもへの支援を行う基礎づくりをしていくものです。まず、本年6月5日以降に実施するボランティアスタッフ研修の費用の援助を行って頂くこととなっております。今後のその他の具体的な活動状況などについては、改めてご報告させていただきます。

なお、スタートラインプロジェクトの詳細につきましては、当センターのホームページでも情報を掲載しておりますので、ご確認ください。

≡スタッフ通信 第2回≡

「ピピオの家」スタッフの0です。

「ピピオの家」を利用する子どもたちには、たくさんの大人が関わっていますが、その中にボランティアスタッフの皆さんがおられ、「ピピオの家」に足を運んでくださっています。ボランティアスタッフさんの年齢は、20代～70代と幅広く、それぞれの経験、特技を活かして「ピピオの家」の生活をサポートしていただいています。美味しい得意料理を作って下さる方、簡単レシピを紹介して下さる方、庭にきれいな花を植えて下さる方、宿泊してスタッフの休みをサポートして下さる方など。男性には、植木の剪定、窓拭き、子どもの引越しの手助けなどしていただき、女所帯の「ピピオの家」では大助かりです。

子どもたちは、性格も状況も様々で、難しいお年頃でもあり、日替わりで来られるボランティアさんに打ち解けるには時間がかかることもあります。挨拶するのがやっとだったり、せっかく作ってくださった食事も「食欲ないから。ごめん。」と食べなかったりということもあります。

特にここ1年は、学校やバイトで昼間出かけている子どもが多く、ボランティアさんとの関わりが少なくなっていました。それでも子どもたちは、「今日は誰が来ちゃった?」「このご飯おいしかったけえ、また作ってほしいな」と、ボランティアさんのことを心に留めて生活していたように思います。

ボランティアスタッフの皆さんは、子どもたちにとっても、スタッフにとっても、小さな「ピピオの家」にいろんな風を運んでくださるありがたい存在です。新しい出会いを楽しみにしています。これからもどうぞよろしくお願ひします。